

「中間とりまとめ」以降に判明した主な事実情報について

(1) 事前対策について

| | |
|-------------------------------|------|
| 大川小学校の災害対応マニュアルについて | p. 1 |
| 地域防災計画の修正及びハザードマップの策定経緯 | p. 2 |
| 大川小学校の校舎設計時の考え方 | p. 3 |
| 消防関係機関における事前計画 | p. 4 |
| 大川小学校勤務経験者に対するアンケート調査結果 | p. 5 |

大川小学校の災害対応マニュアルについて

平成19～21年度の「教育計画」の内容を検討するとともに、関係者に対する聴き取りを行った。この結果は、以下のとおりである。

平成18年度に「教育計画」の見直しを行う際に、災害対応マニュアルも大幅に改訂した。宮城県沖地震が再来するという危機感があったためである。この結果、平成19年度の「教育計画」には、平成22年度のものと同様の災害対応マニュアルが記載されることとなった。この改訂によって、災害対応におけるPTA（保護者）の役割が明確化されることとなったため、同年度のPTA拡大役員会議にその内容を諮り、さらにはPTA総会でも周知した。PTAの会合でこのように災害対応マニュアルの内容を紹介したのは、保護者の役割が位置づけられるという大きな変更があったためである。

平成19年度の災害対応マニュアルでも、第三次避難場所（マニュアル中の表現では「第二次」）は、平成22年度のマニュアル同様、「近隣の空き地・公園」とされていた。これは、地震を想定したものであり、地震や地震に伴う火災、ガス爆発、余震による建物倒壊などによって、校庭に危険が迫ってきた場合に避難する場所という位置づけだった。「近隣の空き地」は釜谷交流会館の駐車場、「公園」は体育館裏の児童公園（ちびっこ広場）をイメージして定めたものであった。

平成19年度のマニュアルにも、2ページ目の「2. 地震発生時の基本対応」という項目の中では「安全確認・避難誘導（火災・津波・土砂くずれ・ガス爆発等で校庭等が危険な時）」というように「津波」という文言がある。しかしながら、現実問題として津波は想定されてはいなかった。

平成22年度の災害対応マニュアルの1ページ目、表題の「(津波)」という文字や、安否確認・避難誘導班の「津波の発生の有無を確認し第2次避難場所に移動する」という一文は、平成22年度に追加されたものである。（平成19年度、平成20年度、21年度のマニュアルには、これらは記載されていない。）

（*平成22年度のマニュアルにおける文言追加の経緯については、今後更に調査を進める。）

平成19年度のマニュアルでのメール配信の仕組みについては、引き渡しのために保護者に連絡をとる手段として利用する目的で考案されたものであった。しかし当時は、メール配信サービスの利用料金が高く、また世帯数も70程度であるという理由から、事前にアドレスを登録しておき、学校から直接保護者へメール送信することで対応することにした。しかし、アドレス登録を始めたのが平成19年度の遅い時期であったことや、提出してもらったアドレスが正しいかどうか（大文字・小文字など）の確認を保護者に行っているうちに年度末になってしまい、次年度に引き継がれたものの、そのまま立ち消えになったようである。その結果、引き渡しの仕組みそのものも未完成のままになってしまったと思われる。

地域防災計画の修正及びハザードマップの策定経緯

平成17年4月に旧1市6町が合併して新石巻市となるまでは、各自治体が地域防災計画を策定していた。合併に伴い、各種災害の発生及び被害予想箇所の情報を一元化して組織的な災害対応を行うため、新石巻市の地域防災計画及び各種ハザードマップの策定が喫緊の課題とされた。

そこで、石巻市では、宮城県が平成16年3月に公表した第三次地震被害想定調査に基づいて地域防災計画とハザードマップを策定することとし、平成18年5月に第1回石巻市地域防災計画策定委員会を開催して作業を開始した。そして、本庁各部・各総合支所へ旧防災計画の見直しを依頼するとともに、策定業者に業務委託して作業を進め、平成20年6月までには作業を終えた。ハザードマップについては、平成21年3月から市民、関係機関への配布を開始した。

地域防災計画における避難所の指定に関しては、本庁及び各総合支所でそれぞれ候補となる施設を挙げ、津波や洪水の浸水予測など災害危険の有無と、その立地の標高などを勘案して、安全性を確認の上で指定したとされる。しかし、そのプロセスの詳細については、今後更なる調査が必要である。

なお、地域防災計画の修正と並行して、「日本海溝・千島海溝付近海溝型地震に係る地震防災対策推進計画」の策定が県から求められた。この際、「津波に関する防災対策を講ずべきものに係る区域」の指定が行われたが、この特定にあたっては、県の発表した第三次地震被害想定調査の津波浸水域をもとに、地図上で対象区域を町丁目単位にするという作業が行われた。この結果、河北地区においては、次表の地区が対象区域とされた。

| | |
|-----|---|
| 河 北 | 福地字大正、福地字昭和、福地字山下、釜谷字新町裏、釜谷字谷地中、釜谷字川前、長面字鳥屋場、長面字須賀、長面字洞が崎、長面字平六、長面字角内谷地、長面字梨木、長面字江畑、尾崎字弘象 |
|-----|---|

大川小学校の校舎設計時の考え方

設計を開始する時点で、すでに現在の校地に建設することが決まっていた。

当初、町は、木造の旧校舎が建っている場所に新校舎を建設するという意向を持っていたが、約2年近い工事期間中の学校活動を考慮し、木造校舎を活かしてそこで授業を行いつつ、当時のグラウンド部分に、若干の敷地拡張をして新校舎を建設することになった。工事は大きく1期工事と2期工事に分かれ、後者でプールを建設した。体育館のみ、旧校舎時代から使っていたものを、そのまま使って、新校舎と渡り廊下で結んだ。

設計当時、地震対応については町から指示があり、構造計画に当たっては、地盤のボーリング調査が行われている。大川小学校の校地には、非常に古くから学校があるが、「河北町立大川小学校新築工事について」の「構造計画」記載のとおり、ボーリング調査の結果によれば、大川小学校の校地は、液状化のおそれがある砂シルト層で、基礎杭を12～22mほど打つ必要があった。(理想的には、地盤改良を行いたいところだが、予算・期間の関係からそれをあきらめたという経緯がある。)また、校庭は常に凹凸ができ、少し掘れば水が出るなど、地下水位も浅い地盤であった。古くからの北上川の氾濫、川の流れる位置の変化によって堆積してきた地層と思われ、学校の立地としては決して良い地盤ではない。

関係者の証言によれば、設計当時、対岸の飯野川地区で氾濫の歴史があることは聞いたが、釜谷地区で水が出るという話はなく、大川小の設計時に川の氾濫を考慮するようという指示も受けておらず、ましてや、津波という話はまったく出ていなかったとのことである。

大川小の校舎は、津波の来襲する川・海の方に開いておらず、校庭側に開口部の多い校舎となっていたが、それは、既存校舎の側を校庭にする関係で、校庭側に向かって開くようにしただけで、津波を意識して設計されたわけではない。

消防関係機関における事前計画

石巻市広域行政事務組合消防本部（以下、「市消防本部」とする。）の大地震災害初動マニュアル（発災時）には、「第4 地震災害における活動方針」の中で、次のように記載されている。

4 津波対策

- (1) 津波警報が発令された場合は、警対本部は管内海岸部への来襲時刻、来襲時の潮位から判断される予想浸水区域などを、関係機関から情報収集し、各現場本部へ伝達する。
- (2) 現場本部では、市町防災無線による広報を確認しながら、海岸部及び予想津波高より低い地区をパトロールし、避難を広報する。
- (3) 「オオツナミ」が予報される場合など、津波による相当な被害が予想される場合は、沿岸部の住民を高台へ避難させることを最優先に実施する。
- (4) 津波襲来予想時刻の10分前には、浸水予想区域内から全ての舞台（消防団隊含む）を撤退させる。

また、これをもとに策定されたものと推定される河北消防署の「大地震災害時の初動体制」によると、「2 津波対応準備」として、次のように記載されている。

2 津波対応準備

- (1) 津波情報確認、津波到達時間 （満潮時間も掲示）
- (2) 支所（災対本部）へ携帯無線（河北携帯1）を持参し出向する。（災害状況等により異なる）（司令補以上）
- (3) 広報については、津波襲来時分を考慮し広報車で長面・尾崎地区へ出向する。防災無線による広報は石巻市（総合支所で実施する）。海面監視の状況は、北上所より情報提供を受ける。

さらに、石巻市河北消防団の「災害時の活動要領（H22）」には、消防団員の任務内容として「津波警報が発表になった場合は原則として第4分団のみ参集」とされている。この第4分団とは、第1部（横地班、横川班、谷地班）、第2部（針岡第一班、鳥屋森班、芦早班、針岡第二班、間垣班）、第3部（釜谷班、入釜谷班、長面班、尾の崎班）である。

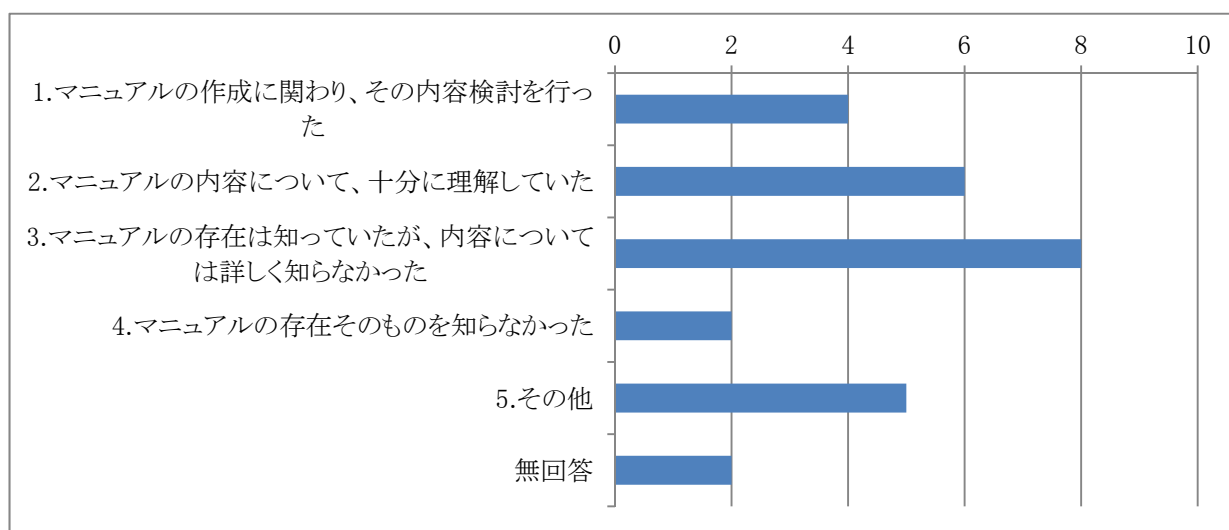
関係者への聴き取りによると、津波警報発表時の対応は、具体的には、分団ごとに設定されていた代表詰所へ参集し、被害状況を把握するとともに総合支所に設置された対策本部へ報告することが挙げられる。加えて、水門閉鎖と避難呼び掛けの広報を、長面・尾崎地区を中心に実施することが想定されていたとのことである。

大川小学校勤務経験者に対するアンケート調査結果

- 調査期間：6月1日（調査票発送）～7月12日
- 調査対象：震災前12年間（平成11～22年度）に大川小学校に在籍した教職員（うち震災当時の教員2名を除く）
- 調査対象人数：38名（うち宛先不明のため調査票未達1名）
- 回収数（回収率）：27件（72.9%）

まず、災害対応マニュアルについて尋ねた結果が次図である。マニュアルの存在を十分知っていたのは計10名であり、「内容はよくわからなかった」8名、「マニュアルの存在を知らなかった」が2名である。また、「その他」の自由記述に「マニュアルはなかった」という回答が2名あった。この2名は、いずれも調査対象とした期間のうち初期の年度（平成11～13年度）に在職していた教職員である。このことから、この期間にはマニュアルが存在していなかったか、もしくは存在していたものの知らなかった又は忘れてしまった、という2つの可能性があると考えられる。

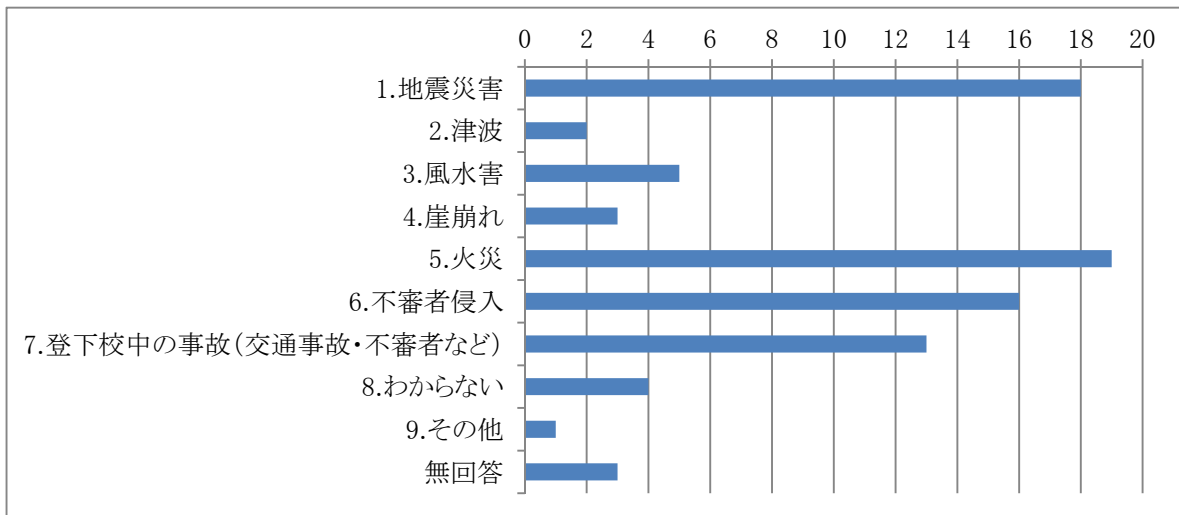
災害対応マニュアルの認知度



| その他 記入事項 |
|---|
| マニュアルはなかった |
| マニュアルはなかった |
| すみません、覚えておりません |
| ・(避難訓練実施計画)と、欄外に記述有り。 ・16・17年度は●●●●●●●●(注:個人情報保護のため伏せ字)作成に関わりました。大きな改訂等はしていません。元々、地震と火災だけでしたが、池田小事件を受け、不審者対応の避難訓練を追加しました |
| 内容についてある程度分かっていた。マニュアルを見れば対応の仕方は分かっていた |

また災害対応マニュアルの想定災害について尋ねたところ、火災（19名）、地震（18名）、不審者侵入（16名）、登下校中の事故（13名）の順で多く、津波という回答は2名のみであった。また、この2名の在職年度を確認したところ、いずれも平成15年度以降に大川小学校に勤務した教職員であった。マニュアル上では津波はほとんど意識されていなかった。

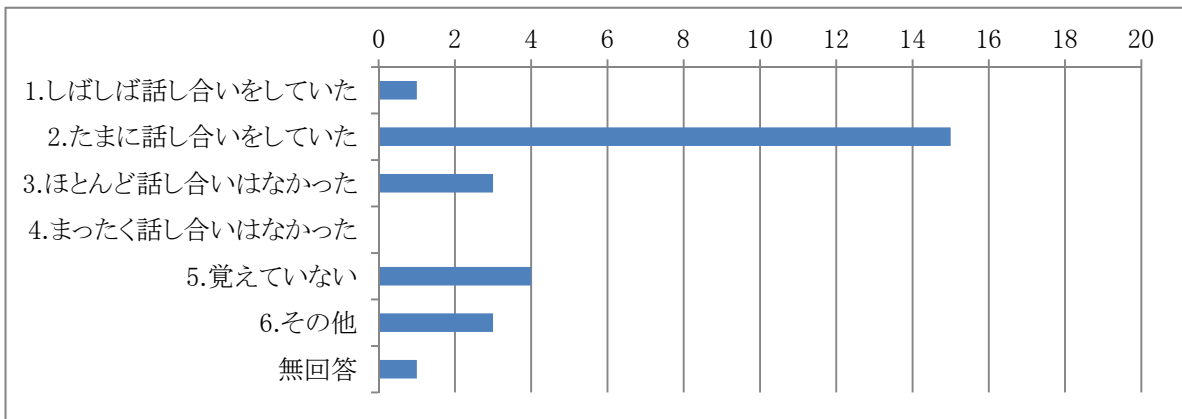
災害対応マニュアルの想定災害



| その他 記入事項 |
|----------------|
| マニュアルということばはない |

在職中、職員会議で災害対応マニュアルについて話し合いを持ったかについて尋ねたところ、「たまに話し合いをしていた」が15名と最も多く、「覚えていない」5名、「ほとんど話し合いはなかった」3名、「しばしば話し合いをしていた」1名であった。また、この結果を在職年度別に見たが、全期間についてほぼ均等に回答があり、たとえば一定の期間のみ話し合いが少ないなどというような傾向は見られなかった。

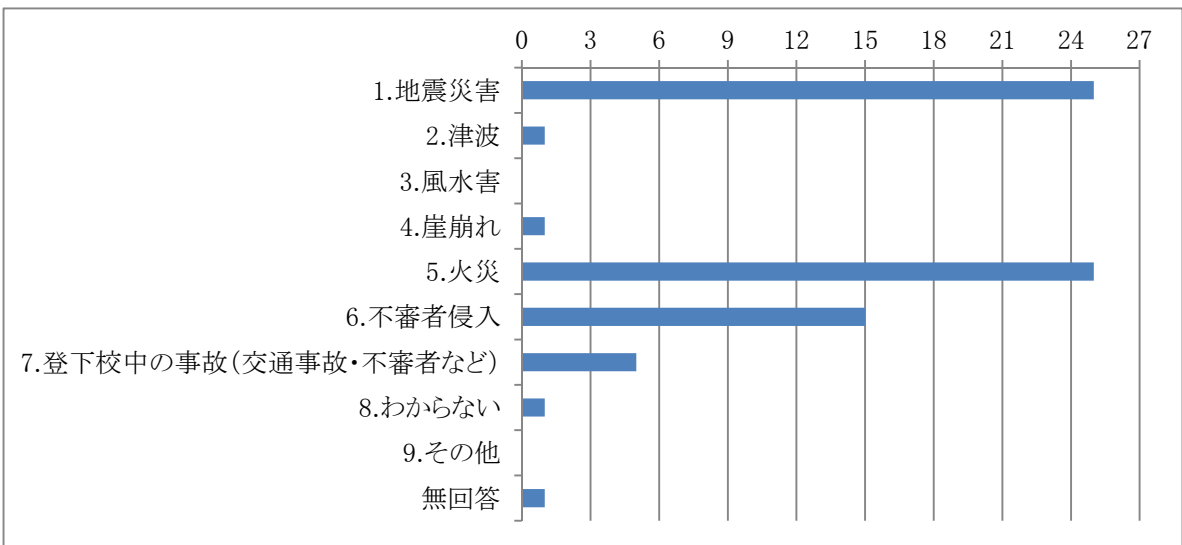
職員会議での災害対応マニュアルの検討状況



| その他 記入事項 |
|---|
| 地震、火災の対応の話し合いをしていた。 |
| マニュアルということばはない |
| 作成は管理職が行い、年度始めの職員会議で職員全体で確認していた。訓練時の細かい動き等、その月の職員会議で提案され話し合ってから実施していた。(※選択肢は 2.を回答) |
| 年4～5回、避難訓練の時に。 |

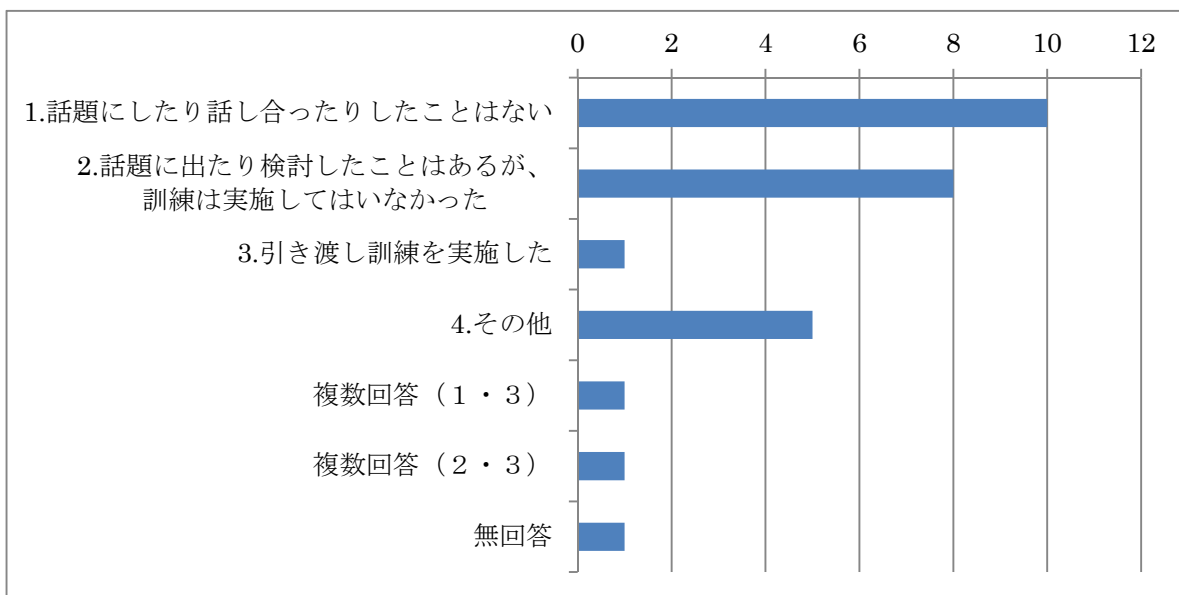
避難訓練の想定災害について尋ねたところ、地震及び火災が最も多く（それぞれ25名）、次いで不審者侵入が15名であった。津波や風水害、崖崩れを想定したという回答はほとんどなかった。津波と回答した1名の在職年度は平成18～20年度であることから、この点について事実関係を確認することが必要と考えられる。

訓練避難の想定災害



さらに、災害時の保護者への引き渡し訓練について尋ねた結果が、次図である。10名が、「話題にしたり話し合ったりしたことはない」と回答した。これを在職年度別に見ると、「話題にしたり話し合ったりしたことはない」との回答は、比較的古い年度（平成11～15年度）に勤務した教職員が多いのに対し、「話題に出たり検討したことはあるが訓練は実施してはいなかった」との回答は平成15年度以降に在職した回答者が多い。また、「4.その他」欄への記述には、「引き渡し訓練を実施していなかった」「荒天時に実際に引き渡しを行った」との回答が目立つ。

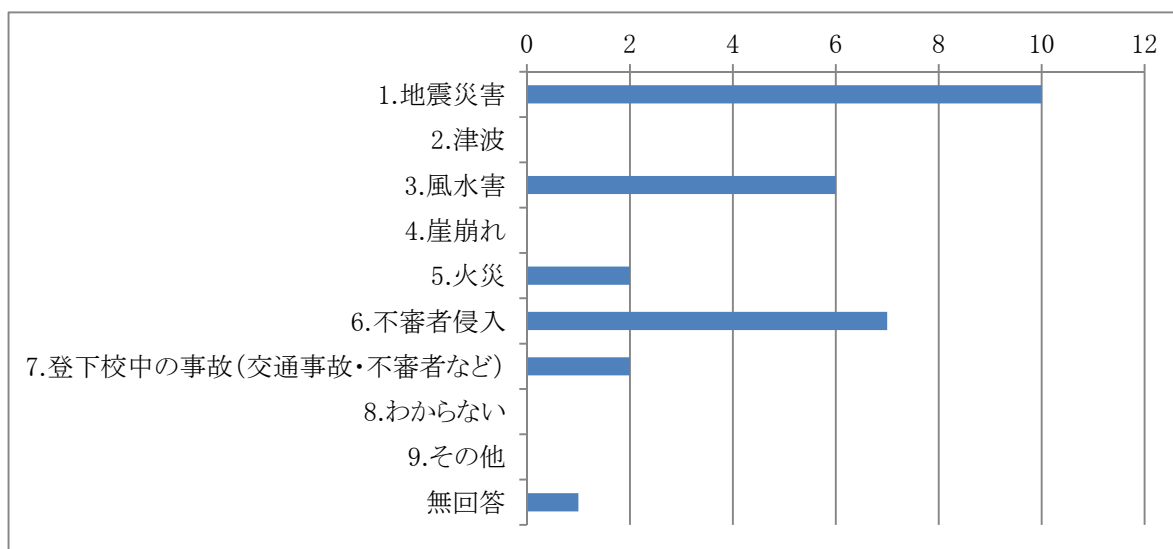
引渡し訓練の検討状況



| その他 記入事項 |
|---|
| 避難訓練は行ったが、引き渡しは無かったと思います。 |
| 荒天時に、訓練ではないが保護者等に迎えに来ていただいたことはあったように思う。（※選択肢は1.を回答） |
| 覚えておりません 1のような気がしますが…。 |
| 実施したような記憶がある。なんとなく。（※選択肢は2.と3.を回答） |
| 欄外記入事項:実際に引き渡しを行ったことがある(大雨)（※選択肢は1.と3.を回答） |
| 話題に出たり検討したことがあるかどうか覚えていないが、引き渡し訓練は実施していなかったと記憶している。 |
| 引き渡し訓練はしていなかった。 |
| 引き渡し訓練に関しては、直接かかわっていなかった。 |

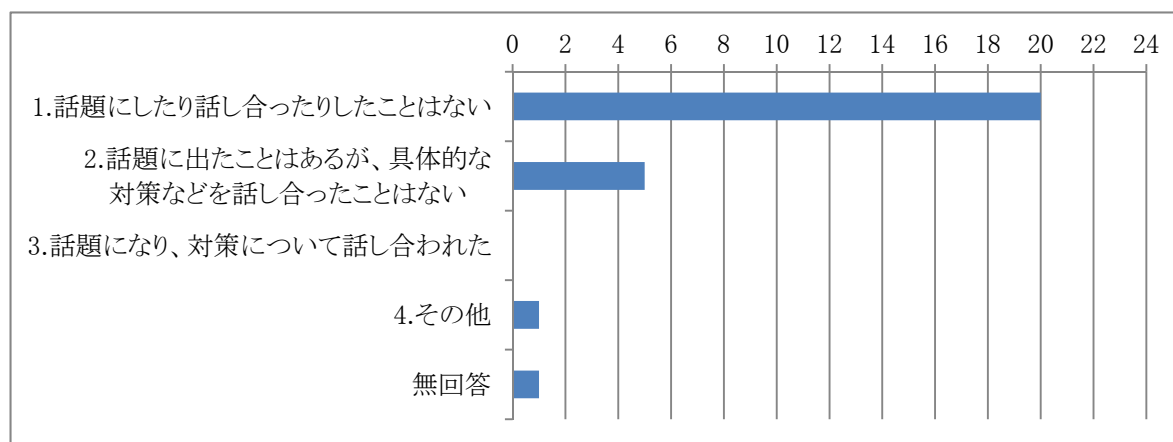
また、引き渡し訓練の際に想定されていた事件・事故・災害について尋ねたところ、「地震災害」が10名で最も多く、次いで「不審者侵入」(7名)、「風水害」(6名)、「火災」と「登下校中の事故(交通事故・不審者など)」(各2名)であった。津波と回答した者はいなかった。

引渡し訓練の想定災害



津波について「職員会議等で話題にしたり話し合ったりしたこと」の有無について尋ねる設問に対しては、「ない」が20名、「話題になったが具体的な話はなかった」が5名、「覚えていない」が1名であった。また、この回答を在職年度別に見ても、特に傾向は見受けられなかった。

津波に関する職員会議棟での検討状況

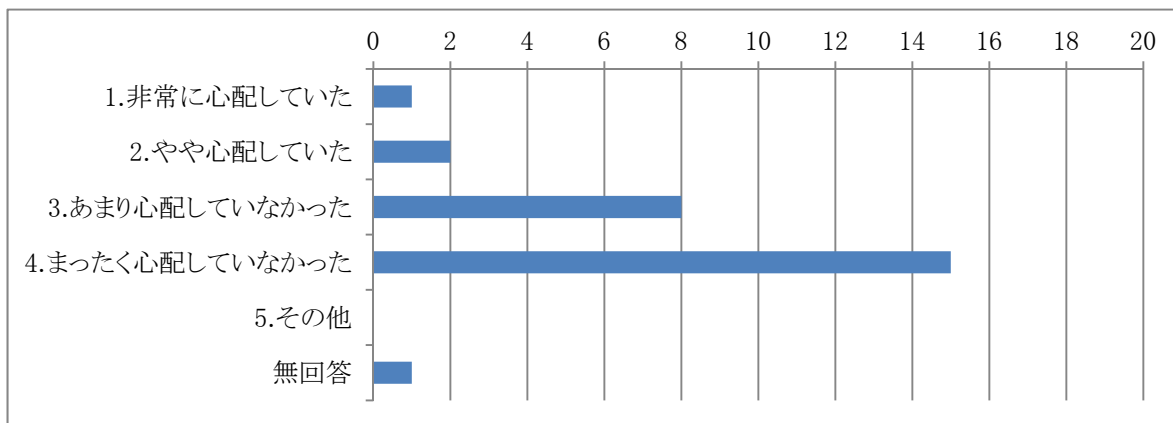


その他 記入事項

はっきりとは覚えていない。

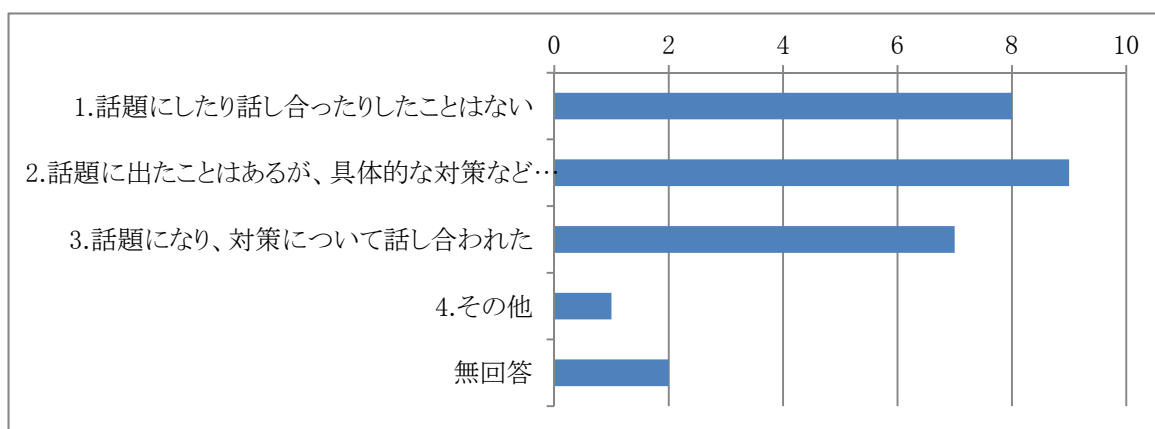
個人としての津波に対する不安の有無を尋ねたところ、「全くなかった」が15名、「あまり心配しなかった」が8名であり、大部分の教職員が津波の心配はしていなかった。また、その理由を自由記述で尋ねたところ、過去に経験がないこと、海からの距離が遠いこと、北上川に高い堤防があること、ハザードマップの想定外であること、などが挙げられた。

津波に対する心配



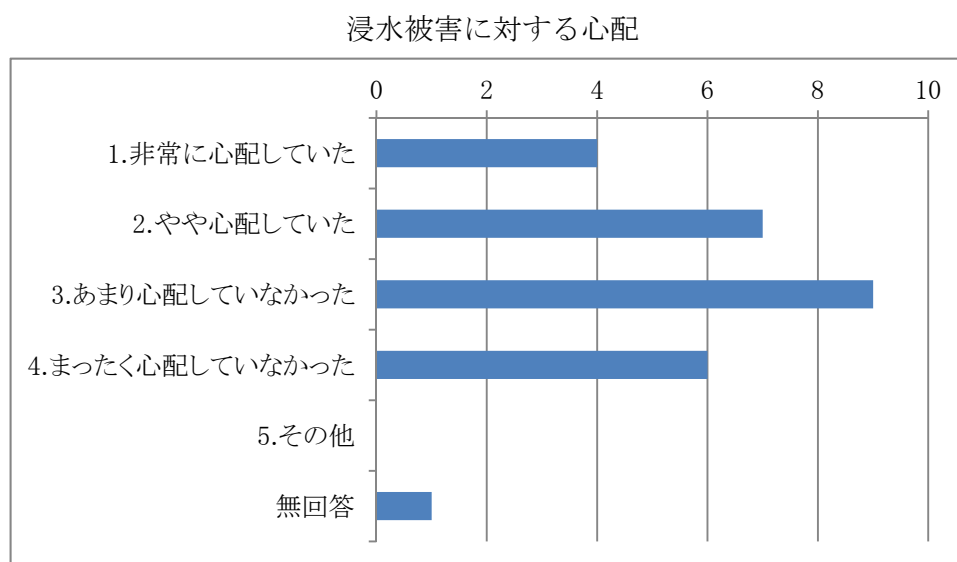
教職員の間での浸水被害についての検討状況について尋ねたところ、「話題に出たことはあるが、具体的な対策などを話し合ったことはない」と回答した人が9名、「話題にしたり話し合ったりしたことはない」と回答した人が8名だった。一方で、「話題になり、対策について話し合われた」と回答した人は7名だった。これを在職年度別に見ると、特に一定の時期に話し合いが行われたという傾向は見られないことから、話し合いはある時期に行われたというのではなく、一部の教職員の間で話題になったり話し合われたりしていた可能性が考えられる。

浸水被害に関する職員会議等での検討状況



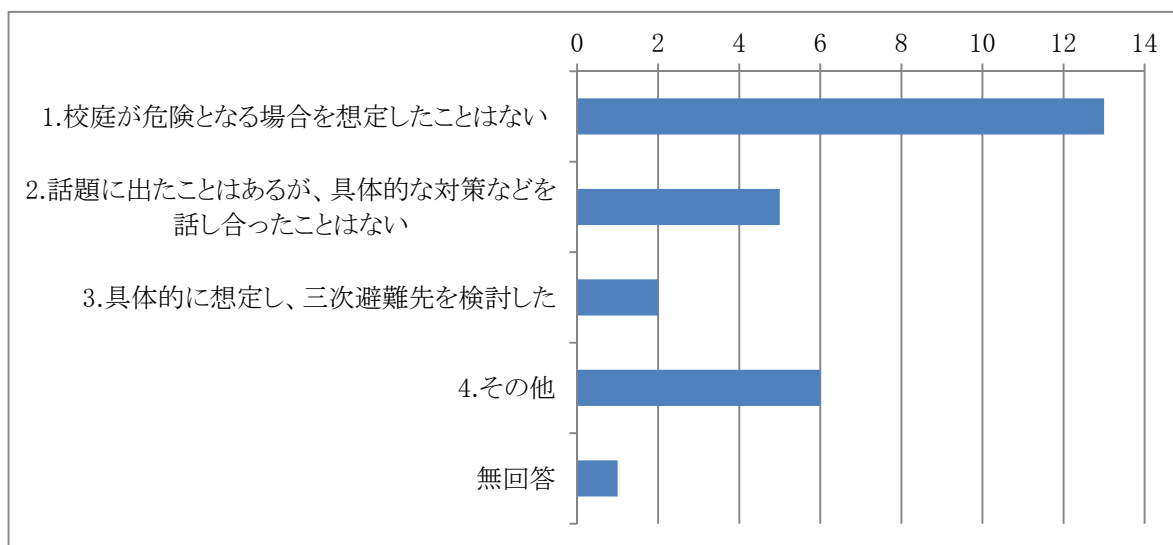
| |
|------------------|
| その他 記入事項 |
| ちょっとわからないです、記憶が？ |

個人としての「浸水被害」に対する不安の有無を尋ねたところ、「非常に」と「やや」心配していた者が計11名いたが、「あまり」及び「全く」心配していなかった者も計15名であった。この回答を在職年度別に見ても、特に傾向は見受けられなかった。また、回答の理由を聞いたところ、「非常に」と「やや」心配していたと回答した理由として、「台風・大雨で北上川の水位の上昇を、時々見るがあった」、「大風等の場合、度々冠水していた」といったことが挙げられた。



次いで、二次避難先（校庭）の危険性に関する想定・検討状況を尋ねたところ、「危険となる場合を想定したことはない」（13名）、「三次避難先を話題にしたことがあるが具体策はなかった」（5名）、などという結果となった。「具体的に想定し、三次避難先を検討した」と回答した者は2名おり、その三次避難場所の候補としては「三角地帯」が挙げられていた。また、この結果を在職年度別に見ると、「三次避難先を話題にしたことがあるが具体策はなかった」という回答は平成15年度以降に見られるのに対し、「具体的に想定し、三次避難先を検討した」と回答した2名の在職年度は平成11～15年度であった。このことから、当該2名の在職していた時期に、一時的にはあるが、具体的な三次避難先の検討が行われていた可能性が考えられる。

二次避難先（校庭）の危険性に関する検討状況



| その他 記入事項 |
|---|
| 校庭が危険な場合は三角地帯への避難の話があったと思います。 |
| 3(と思います)(※選択肢は3.と回答) |
| 三角地帯と思います。(※選択肢は3.と回答) |
| H14か15年に裏山が崩れたので、山に近づきすぎないように校庭中央に避難した。(※選択肢は3.と回答) |
| 少々あやふやです。すみません。 |
| 二次避難先までだったような気がする。 |
| 地震と火事の際の三次避難先を体育館裏の公園か釜谷生活センター前の空き地と私自身は決めていたが、マニュアルには公園・空き地としか記入していた。津波は想定しなかった。 |
| 欄外記述:わからない |

三次避難先の候補場所

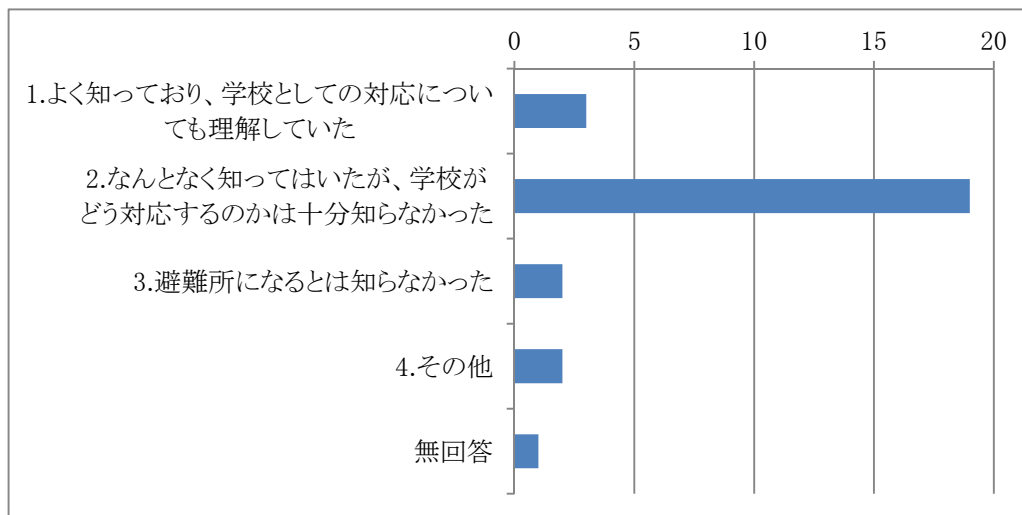
| Q1-10-2 記入事項 |
|--|
| 通称 三角地帯への避難を考えた記憶がありますが、定かではありません。三角地帯へ、みんなで歩いた訓練をしたような記憶があります。(でもそれは訓練ではないような気がします。すみません) |
| 三角地帯 |

大川小学校が災害時における地域の避難所となっていることについて尋ねたところ、「なんとなく知ってはいたが、学校がどう対応するかは十分知らなかった」との回答が最も多く（19名）、「よく知っており、学校としての対応についても理解していた」、「避難所になるとは知らなかった」と回答した人はあまりいなかった。また、この回答を在職年度別に見ても、特に傾向は見受けられなかった。避難所となることは知られていたものの、どのように避難所対応をしていくかについては具体化されていなかったか、具体化されていても十分に周知されていなかった、と考えられる。

さらに、「よく知っており、学校としての対応についても理解していた」あるいは「なんとなく知ってはいたが、学校がどう対応するかは十分知らなかった」と回答した人に対して、

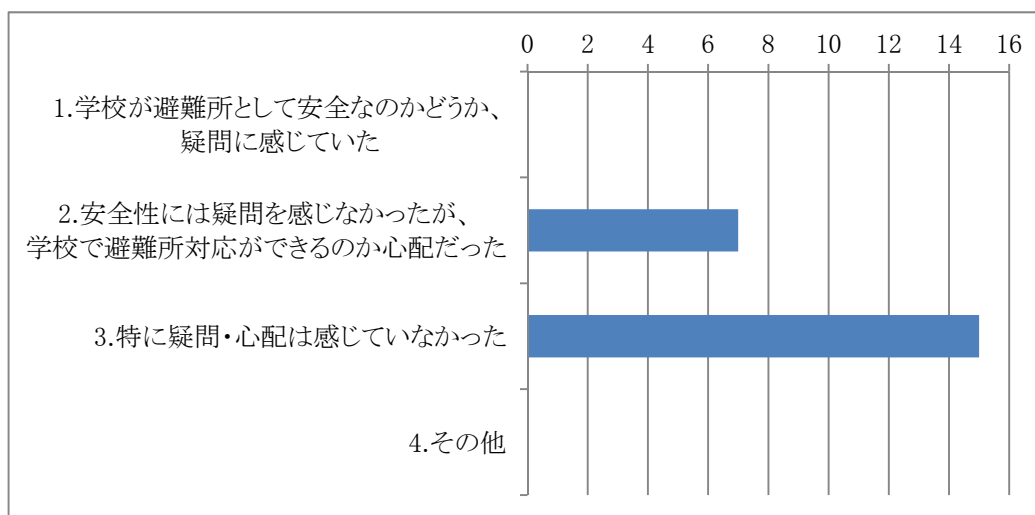
学校が避難所になることについて尋ねたところ、「特に疑問・心配は感じていなかった」と回答した人が15名、「安全性には疑問を感じなかったが、学校で避難所対応ができるのか心配だった」と回答した人が7名という結果になった。

大川小学校が地域の避難所になっていることについて



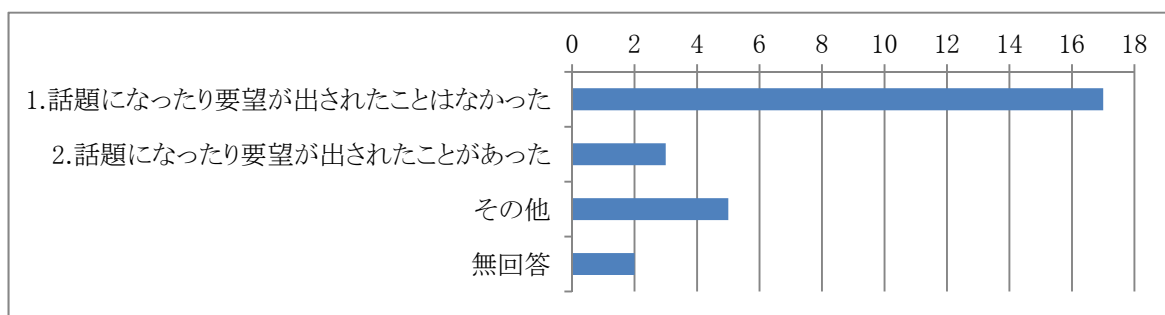
| その他 記入事項 |
|-------------------------|
| 覚えておりません |
| 大雨による洪水(浸水被害)の時に初めて知った。 |

避難所としての学校について



地区懇談会、PTAの会議など、学校と地域や保護者が話し合いを行う場で、災害時の避難について、検討されたかについて尋ねたところ、「話題になったり要望が出されたことはなかった」と回答する人が大多数であり（17名）、「話題になったり要望が出されたことがあった」と回答した人は、3名だった。また、この回答を在職年度別に見ると、「話題になったり要望が出されたことはなかった」と回答する者は在職年度に関わらず見受けられたが、一方で「話題になったり要望が出されたことがあった」と回答した者の在職年度は平成15～20年度に限られていた。よって、この期間に、災害時の避難について、関わっていたのは一部の教職員のみであったかもしれないが、検討された可能性がある。

学校と地域や保護者が話し合いを行う場における災害時の避難についての検討状況



| 記入事項 | |
|--|--|
| 時期・地域 | 内容 |
| 地区懇談会へは参加していません※(職務的に) | |
| 欄外記入事項: すみません 覚えておりません | |
| | 参加したことがないので分からない |
| H15 6月 PTA の役員会 12月 同上 | 大規模地震についての対応 崖崩れについて バスで通学中のインフルエンザの感染について |
| 欄外記入事項: ●●●●●●●●(注: 個人情報保護のため伏せ字)なので設問のような会議に参加したことがないため分からない。 | |
| 平成 18 年? 4月の PTA 総会のとき。 | 地震のマニュアルを新しく作成した。その中に PTA の役割を入れたので、PTA 総会時に説明し協力をお願いした。 |
| 平成 20 年 | 災害時に保護者へ児童を引き渡すため、メールアドレス登録の計画を話し合った。 |
| | 欄外記述: わからない |

続いて、学校の裏山斜面を写真のとおり3か所に区分して、その利用実態を尋ねた。



学校管理下とそれ以外で、登るなど何らかの活用経験を尋ねた結果が、次表である。全般的に見ると、A、B、Cの3か所のうちCについては、学校管理下で活用していたという回答が多い。一方、「誰かが登っているのを見たことも聞いたこともない」との回答も、A～Cそれぞれ4～5名ある。

学校裏山の活用状況

| Q3-1. あなたの在職中、写真A～Cの部分は、それぞれどのように利用されていましたか。 (当てはまる欄すべてに○印を記入) 単位:人 | | | | | |
|---|--------------------------|---|---|----|--|
| 使われ方 | 山の場所 | A | B | C | |
| 学校管理下で | 1.自分が登ったことがある | 4 | 3 | 12 | |
| | 2.自分が授業で児童と一緒に登ったことがある | 2 | 0 | 9 | |
| | 3.他の先生が登るのを見たことがある | 1 | 3 | 5 | |
| | 4.他の先生が授業で児童と登るのを見たことがある | 1 | 1 | 6 | |
| 学校とは 関わりなく | 5.自分が登ったことがある | 1 | 3 | 3 | |
| | 6.他の先生が登るのを見たことがある | 1 | 2 | 0 | |
| | 7.地域の人が登るのを見たことがある | 1 | 0 | 2 | |
| | 8.子どもが登るのを見たことがある | 0 | 1 | 2 | |
| 9.誰かが登っているのを見たことも聞いたこともない | | 5 | 4 | 4 | |
| 10.以前は登っていたと聞いたことだけはあ | | 0 | 4 | 1 | |
| 11.その他 | | 0 | 1 | 1 | |
| 無回答 | | 1 | | | |

| その他 記入事項 | |
|----------|---|
| 裏山の場所 | 内容 |
| A | 欄外記入事項:3年生児童(H13年度)がAの場所にのぼり、遊んでいたので注意した(通学バスを待っている時間)ことがありました。 |
| | H19頃、Aの箇所を登ろうとしたが、下草やら笹やらで登れる状態ではなかった |
| B | 校舎全景の写真を撮る為に、C地点からB地点(当時は土留は無し)にロープを持って登り、B地点上部の杉にロープを結び、自分の体にも結び、写真撮影をした記憶があります。 |
| | 欄外記入事項:在職中はBの場所は土留めされていない(崩れる前)なので |
| | 当時、用務員さんが登って見たと話していた。 |
| | H21 校長が写真をとるために登っていておどろいた |
| | B6: ?さだかでない? |
| | 学校とは関わりなく「用務員さんが登るのを見たことがある」 |
| C | 校舎全景の写真を撮る為に、C地点からB地点(当時は土留は無し)にロープを持って登り、B地点上部の杉にロープを結び、自分の体にも結び、写真撮影をした記憶があります。 |
| | C シイタケ栽培の学習場所 |
| | しいたけ栽培で使っていた下の方の場所のみ |
| | Cについては、しいたけの栽培や植菌で利用していた。ふもとの近くで栽培を行っていた。(四年次、総合の授業) |
| A, B, C | まむしの生息地で、近辺の山には、入ったり、登ったりしないように注意していた。 |
| | 総合でしいたけ栽培をしていたので、校舎2階ぐらいのところまでは入ったことがある。 |
| | 場所はよくわかりませんが、山のすぐ入口近くで、しいたけ栽培をしていたことがあるような記憶があります。実際に見たことはありません。 |
| | 以前山崩れのため。急な斜面になっているので、誰でも登れる場所ではないと思う。 |

児童に対する指導の状況を尋ねた設問に対しては、「危ないので登らないよう指導していた」とする回答と、「特段の指導は行っていなかった」とする回答が概ね同数あった。また、この回答を在職年度別に見ても、特に傾向は見受けられなかった。

本アンケート調査対象者のうち2名に対し、アンケートとは別に聴き取りを行ったところ、いずれもC部分のふもと部分(当時、シイタケ栽培をしていた箇所)に行った経験は持っていたものの、「山に登るといった感覚はなかった」などと述べた。

山へ登ることについての指導状況

| Q3-2. あなたの在職中、学校としては、子どもたちに対して山へ登ることについて、どのような指導をしていましたか。 | | | | |
|---|------|---|------|---|
| (A~Cそれぞれ1つに○印を記入) | | | 単位：人 | |
| 指導内容 | 山の場所 | A | B | C |
| 1. 危ないので登らないようにと指導していた | | 8 | 10 | 7 |
| 2. 登ってもよいが気を付けるようにと指導していた | | 0 | 0 | 2 |
| 3. 自由に登ってもよいと指導していた | | 0 | 0 | 0 |
| 4. 特段の指導は行っていなかった | | 8 | 6 | 6 |
| 5. その他 | | 2 | 3 | 3 |
| 無回答 | | 2 | | |

| その他 記入事項 | |
|----------|---|
| 裏山の場所 | 内容 |
| B | 崖崩れ、工事の期間は危険なので、指導していた。その後は、登るという意識はなかった。 |
| C | しいたけ栽培の時のみ教師と一緒に。 |
| A, B, C | A, B, C: 登ることに関して指導はしていない。授業で登っていたので、シイタケを見に行く場合など注意はしていなかったと思います。ただ蛇が出るから注意をするように声掛けはしました。 |
| | 学校としてどのような認識だったかは定かではありません。個人的には、私有地と聞いていたような気がするので、気軽に立ち入れる場所ではないと思ってました。 |
| | 教員がどのように指導していたか聞いた事がないので分からない。覚えていません。 |

子ども達に裏山へ登らないように指導した理由

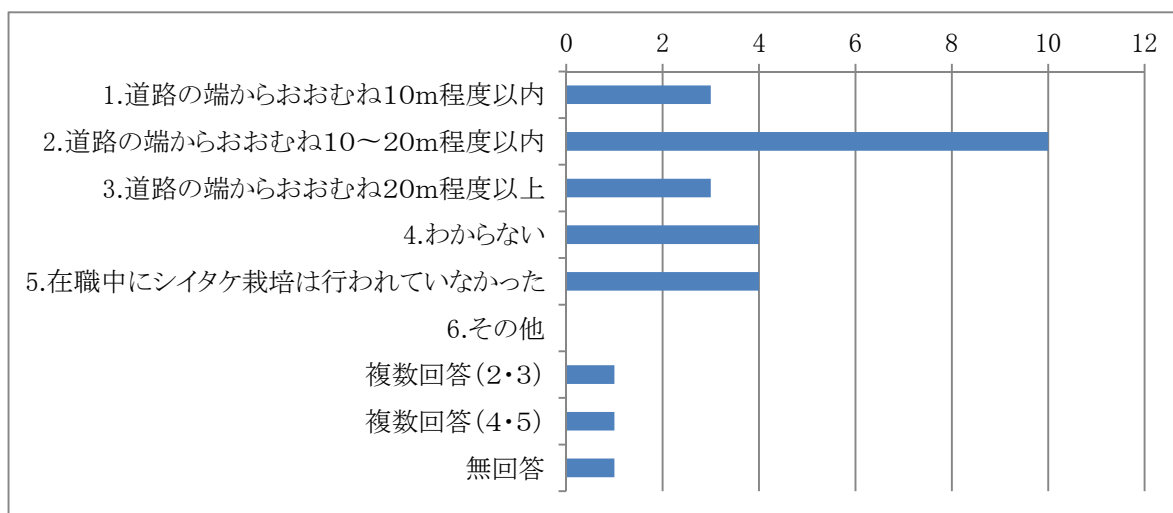
| 記入事項 |
|---|
| 崖崩れ等による落石等が危険だった為 |
| ・山が急斜面で開けていない。(やぶになっている。C) |
| ・まむしがいるという話があった。 |
| ・山の所有者も確認していなかった。 |
| A, Bは登れるところではないし、Cを含めて、山は校地外なので、休み時間や放課後も、校地外に出ることはあり得ない。 |
| 目が行き届かないし、学校の敷地内ではないと思うので。 |
| 先生ではないので、指導したことはない。 |
| A, Bとも危険なので近づかないように指導した。 |
| ・Aは入り口はあるが、少し行くと気がたおれており子どもが近づくことができない。 |
| ・BはH15. 3月に崖崩れをおこし、工事車両等が入り、子どもを近づけないようになっていた。 |
| 特に道の作られていない山だったはずなので、迷いこんだりしては危険だと思ったため。 |
| H14.15頃に土砂くずれがあり、危険なので近づかないようにと職員間で言われたため。 |
| すごい斜面ですから。 |
| 山崩れがあったため。 |
| 山は急斜面であり、児童が山に登れば、けがの恐れがあると判断したため。 |
| 指導する立場ではなかった。 |
| 斜面が急なため、すべり落ちる危険性を感じていたから。崖崩れの心配。 |

学校付近の山（崖）について見聞きした話（自由記述）

| 記入事項 |
|--|
| B 地点の学校よりの部分にコンクリートフェンスがあり、その上部は、石の山肌があり、時々、小さな石が落ちて来た事がありました。 |
| 山や山の動植物については、良い教材になるので、(他の職場では)よく活用していたが、「まむしの話」や急斜面であったことで、体育館裏の開けたふもとぐらいの散策に終わっていた。また一部、ガレ場になっていたようで、落石も心配されていたような気がする。 |
| B については、時々崖崩れもあり壁もあるので、わざわざ登る児童・職員・大人はいないと思う。 |
| 私が離任した 2, 3 年後、B の付近がくずれたということを知った。 |
| 私が在職していた当時は総合的な学習がはじまったばかりでした。また、私は中学年の担任だったために、地域(釜谷)学習で学校周辺を校外学習していました。2 年目(12 年度)か 3 年目(13 年度)には山を登った先に林道があり、そこまで児童と校外学習した記憶があります。また、シイタケの栽培は、総合的な学習の時間で、確か、私が担任していた学年からはじまったように記憶しています。しかし、14 年度に崖崩れが発生してしまい、(私が転任した後)山への出入りができなくなったと聞きました。14 年度は崖崩れの影響で運動会が大川小学校でできなくなり、大川中学校で開かれたということを知りました。H12 や H13 は、崖崩れの前なので、授業中に児童と一緒に学校付近の山へ行っていました。しかし、それは崖崩れが発生する以前のことで、土留め工事された崖や崖くずれが起きた後であれば、山へ行っていたか疑問です。 |
| H14～15 頃に B 地点が突然崩れたので、それ以降は山に入るのは、かなり制限されたと思う。それ以前は、特に C には授業で行っていたと思う。A や B は急なので、ほとんど行かない(行けない)状況であった。 |
| ちょうど崩れた時期に在職していました。小さめの岩がコンコーンと音を響かせ、落ちてくるのを何度も見ましたし、一気に崩れて校庭にも土が入ったときは、山は恐ろしいと感じました。その年はマラソン大会もコースを変更し、裏山の前の道路を通らないようにしました。校庭も使えなくなったので、中学校で運動会をしました。 |
| すみません、山については見聞きした記憶はありません。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・平成 15 年 3 月 B の部分の崖崩れ、その後工事が行われた。工事はしばらく続き、その間は危険なので近づかないよう指導していたと記憶している。 ・工事が終了してからは、コンクリートの壁や急な法面だったため、登るという意識はなかった。 |
| 実際に崖崩れを体験し、その対応の窓口になった。工事期間中は安全のため校庭の半分が使えなかった。山は危険な所という考えがあり、子ども達にもそう指導した覚えがある。 |
| なし。 |
| 赴任した当初から、以前地震があった時に山の崖がくずれ、校庭にまで被害がおよんで大変だったということを知った。特に、それに対して対策をしたかどうかということをはっきりと覚えていないが、崖崩れについては常に気にかけていた記憶がある。 |
| 10 年ほど前に大雨(台風)か地震かで土砂崩れが発生したと聞いたことがあります。話によると校庭のフェンスが埋まるほど崩れたらしく、もしそうであれば、山への避難中に発生したら、児童が土砂崩れによって被災するという事も考えられたと思います。 |

裏山の活用方法として、過去に「シイタケ栽培」を行っていたという情報があることから、その場所について尋ねたところ、道路端からの距離は「10～20m程度以内」（10名）が最も多く、距離を回答した16名のうち計13名が道路端から20m以内と答えた。「在職中にシイタケ栽培は行われていなかった」と回答した者は4名おり、在職年度を見たところ、4名中3名の在職年度は平成11～13年度だった。また、道路面と比較した栽培場所の高さは「3m程度以内」が4名、「3～5m程度」が8名、「5～10m程度」が1名となり、10m以上との回答はなかった。

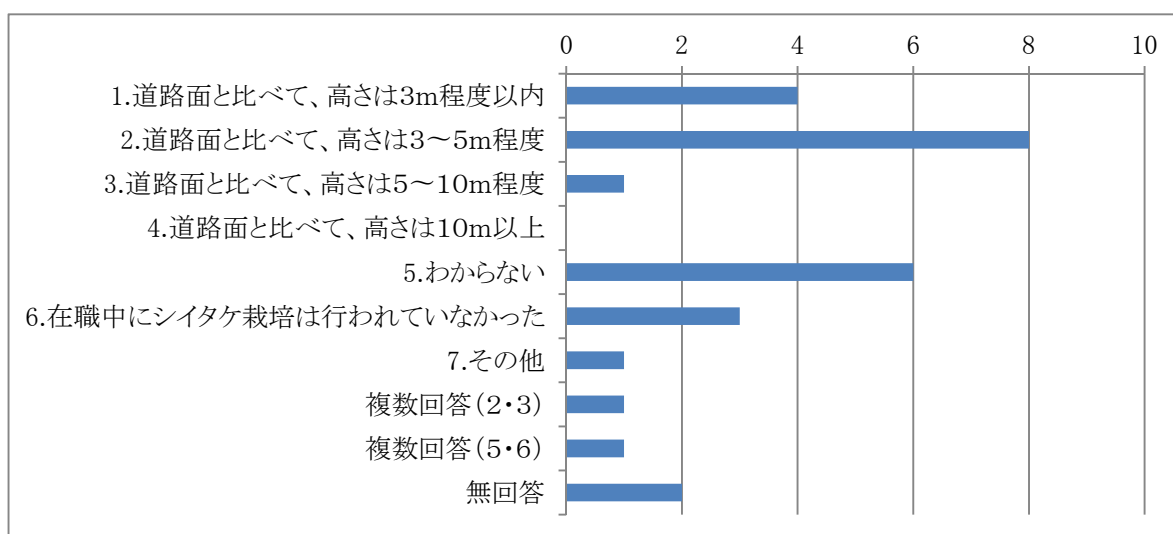
道路端からシイタケ栽培地までの距離



その他 記入事項

欄外記述:実際には見てはいないのでわかりませんが、近くで・・・とは聞きました。(※選択肢は2.を回答)

道路面と比較したシイタケ栽培地の高さ



| その他 記入事項 |
|--------------------------------|
| 欄外記入事項:確信はありませんが…。(※選択肢は2.を回答) |
| 体育館の屋根を見下ろせる程度かと。 |

この場に教職員や児童がどのくらい頻繁に行っていたかを尋ねた設問では、教職員は「頻繁に」又は「たまに」行っていたという回答と、「あまり行くことはなかった」「全く行かなかった」という回答がほぼ均等となっているが、子どもたちの様子としては、「頻繁に行っていた」1名、「たまに行くことがあった」6名、「あまり行くことはなかった」3名、「全く行くことはなかった」1名となっていた。また、この回答を在職年度別に見ても、特に傾向は見受けられなかった。

シイタケ栽培地へ行く頻度

| シイタケ栽培が行われていた場所にどのくらい足を踏み入れていましたか。(1つ選んで○印)単位:人 | Q4-3 | Q4-4 |
|---|-------|------|
| | 回答者自身 | 児童 |
| 1. 頻繁に行っていた | 4 | 1 |
| 2. たまに行くことがあった | 7 | 8 |
| 3. あまり行くことはなかった | 6 | 5 |
| 4. まったく行くことはなかった | 5 | 1 |
| 5. 覚えていない | 0 | 4 |
| 6. その他 | 1 | 3 |
| 無回答 | 4 | 5 |

シイタケ栽培地へ行く頻度（回答者自身）

| その他 記入事項 |
|--------------------------|
| 欄外記述:ある学年(4年?)で栽培していました。 |
| 4年生を担当時に、年に数回行くことがあった。 |
| しいたけ栽培監察時のみ。 |

シイタケ栽培地へ行く頻度（児童）

| その他 記入事項 |
|--|
| 欄外記入事項:頻繁というか、総合の学習の時間にシイタケの様子を観察しに行っていました。 |
| シイタケなので、毎日行っても意味はなく、たまに行く程度。 |
| 水をかけたり、観察したりするときに行く程度なので、週に1回ぐらいだと思う。 |
| 欄外記述:「しいたけを見てきた」と聞くことがありましたので。 |
| シイタケ栽培にかかわったクラスは、良く行っていたと思う。 |
| 4年生を担当時に、授業で年に数回行くことがあった。 |
| 特定の学年だけが授業でシイタケについて学んでいたのが当該箇所に行ったことがある可能性もあるが、仮に行ったことがあるとしても数回程度であろうと思う。 |
| しいたけ栽培は森林組合の方の指導のもと、元3年生が3月に行っていた。H21年.3月の時点で、あの場所より校舎裏の方が適しているという組合の方のアドバイスもあり、その時は校舎裏で栽培することにした。 |

その他、大川小学校の事故に対するご意見、当検証委員会に対するご要望など（自由記述）

| 記入事項 |
|---|
| <p>・在職中は地引き網体験や、浜の清掃活動を行っていた。海水浴場を利用したこともあるが、津波被害があれほどまでになるとは考えてもいなかった。</p> <p>・津波被害よりは、大雨により学校付近の崖(B)が、少しずつ崩れることのほうが、よく目撃したし、気になっていた。</p> <p>※覚えていることを思い出しながら書かせていただきました。ひとつひっかかったことhが、御委員会はどこから私の個人情報(住所等)を知ったのか、情報源を教えてください。お願いいたします。</p> |
| <p>・調査の中の Q1 のマニュアル、Q4 のシイタケ栽培については、記憶があいまいで、自信を持って記入できなかった。</p> <p>・震災後、869 年の貞観地震、1611 年の慶長三陸地震で石巻地方にも大津波が襲ったことを知ったが、震災前は全く知らず、津波に対する意識が低かった。仮に震災時に、自分が大川小に勤務していたとしても、津波に対処できたか、自信がない。</p> |
| <p>大津波が地震によって来ることは正直言って在職中は想定していなかったと思う。ただ校長として児童と教職員の命を守る立場として、あれほどの地震が来て、判断する時間と地域の方々の情報が錯綜した中で校長の判断として裏山 C,A,B の場所へ逃げる指示は訓練していなくても、津波が堤防を越えてくるだろうという想定はしてなくてもあれほどの地震があったなら校長としてとっさの判断として裏山に逃げる指示はしていたらと思う。責任者である校長が不在だったということが今回の大惨事の大きな原因だと思う。</p> |
| <p>私が在職していた当時は山がくずれの前でしたので、写真 C の場所にはよく行っていたのを記憶しています。しかし、何度も記入致しましたが、崖がくずれの前だったので、心配もなく登っていました。</p> <p>Q1～Q3 については、当時の資料は私の手本にありません。安全に対してどのような話合いがあったのか、記憶にありません。お役に立てず、申し訳ありません。</p> |
| <p>津波想定避難は、当時全く考えてはいなかった。チリ地震津波やその他過去の津波被害についても、対岸の吉浜には、石碑が建っているのに、大川側には見付けられなかった。地元の人々も余り意識していない様子だったと思う。</p> <p>大川小には、他地域からの先生が多く、地域の方の言うことを参考にしなければわからない事が多々ある。多くの人々がぞくぞくと避難してくれば意見も異なる。学校はその場合、誰を信じるか、そしてそれが果たしているのかわるいのか、結果として。</p> <p>学校が避難所として地域の人々が来た場合の対処の仕方についての研修会？は、H20 か H21 年頃になってはじめて行われた。</p> |
| <p>ご遺族、亡くなった子どもたちのことを思うと、心が痛みますが、自然災害だということや地域では津波は全く想定していないことだったので、何ともやり切れない思いです。できるだけのご協力したいと思いますので、宜しくお願いします。</p> |
| <p>このたびの津波は、全く想像を絶する巨大なものであり、浜で生活している私達にも予想もできないことでした。ただただ驚くばかりです。命を失ってしまった子ども達、教職員、ご家族の皆様のことを思うと、いたたまれず、涙が止まりません。</p> |
| <p>記憶違いの部分がありましたら、申し訳ございません。</p> |
| <p>よろしくお願いします。</p> |
| <p>・大川小付近はラジオの電波も入りにくく、情報が届きにくいように思っていました。災害時の素早い、正確な情報入手が大事だと思われるので、的確な情報入手の手段が安定していればよかったですのではないかと考えます。</p> |
| <p>検証、どうぞよろしくお願い致します。</p> |